

CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.2)

1. 建物概要

建物名称	(仮称)新津総合体育館建設工事	
建設地	秋葉区 程島地内	
用途地域	第2種住居地域	
建物用途	集会所	
竣工年	2014年3月 予定	
敷地面積	16,556.02 m ²	
建築面積	5,057.72 m ²	
延床面積	5,979.69 m ²	
階数	地上2F、地下0F	
構造	S造	
評価の段階	実施設計段階評価	
評価の実施日	2010年5月18日	

2. CASBEE新潟の評価結果

	A	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{63}{32} = 1.9$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	3.3		バリアフリー	3.0
			維持管理	3.0
			更新性	4.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	4.0		耐震・免震	3.8
			信頼性	4.2
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	4.3		建物の熱負荷抑制	5.0
			自然エネルギー利用	3.5
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.0		節水	4.0
			リサイクル材の使用	4.0
			再利用可能性向上	4.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	3.5		生物環境の保全・創出	3.0
			敷地内温熱環境の向上	4.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	4.5		まちなみ・景観への配慮	5.0
			地域性への配慮、快適性の向上	4.0

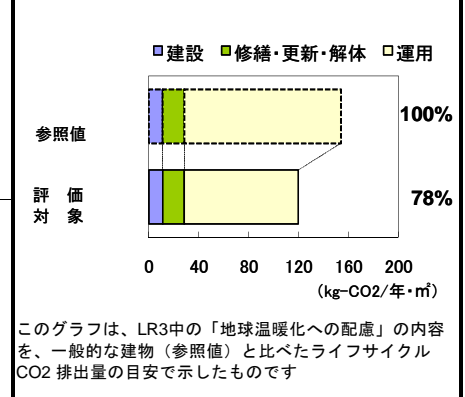
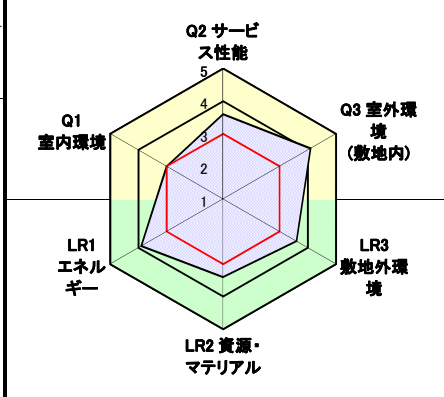
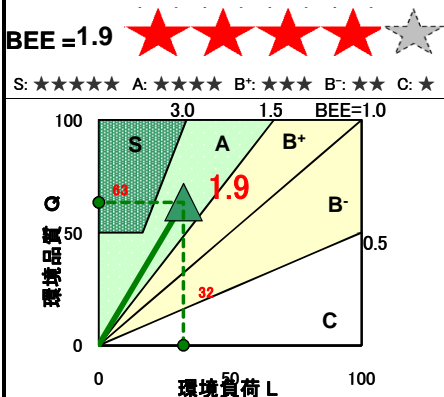
4. 新潟市の重点項目の配慮事項

- ・バリアフリー新法、福祉のまちづくり条例に準拠した施設づくりとしている。
- ・公共施設としての耐震性の確保。(2次設計時の保有水平耐力の割増1.25)
- ・非常用発電装置の設置(消防負荷・保安負荷に対し給電可)、水道直圧による災害時給水システムの確保。
- ・断熱性能の高い屋根材・外壁材・開口部材の採用による、空調負荷の低減。
- ・「新潟市雨水流出抑制施設技術指針(案)」に基づいた計画を行う。
- ・リサイクル建材の一部使用、構造材と仕上げ材を分割可能な計画。
- ・アリーナの気積を確保した上で、建物外周部の高さを極力抑え、周辺環境との調和を図る。
- ・鉄道のまちである新津地区のアイデンティティの表現と周辺環境の調和を考慮し、黒・グレーなど彩度の低い色彩の採用。

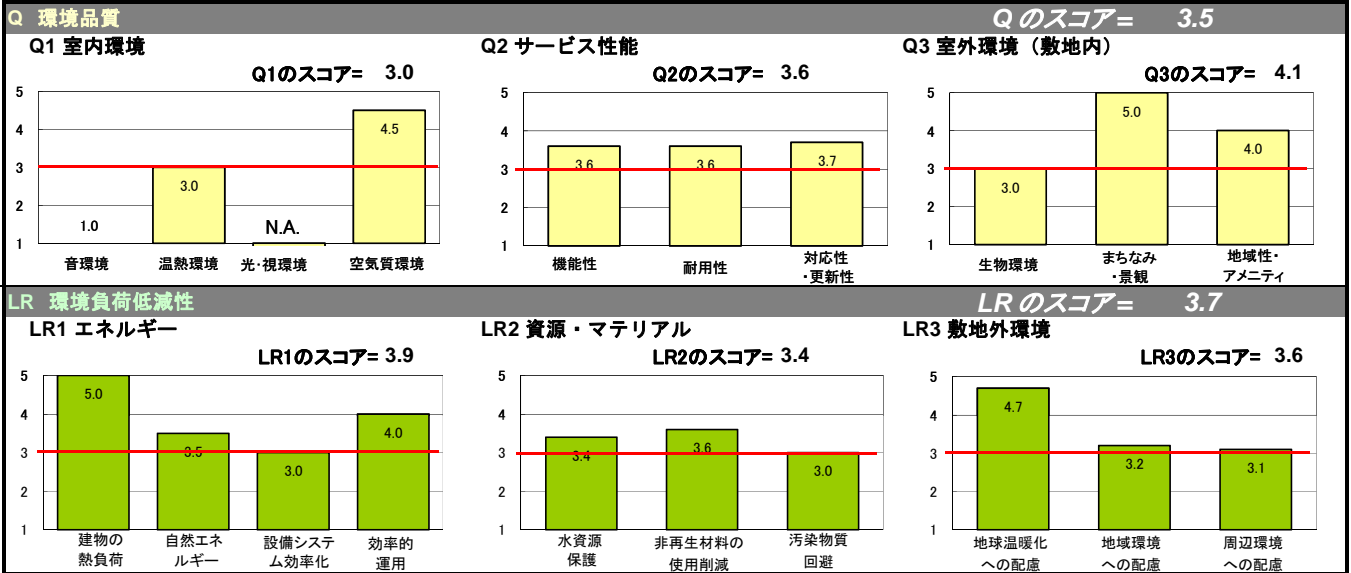
CASBEE[®]新潟 | 評価結果内訳 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築 (簡易版) 2008年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.2)

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート) | **2-2 大項目の評価 (レーダーチャート)** | **2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)**



2-4 中項目の評価 (バーチャート)



2-5 設計上の配慮事項

総合 開放的な大屋根の一体空間 (スポーツの駅) により、スポーツ競技者の憩いの場としてだけでなく、地域住民の交流の場となる総合体育館	その他
Q1 室内環境 建築基準法の室内環境基準を満たしつつ、体育館として快適に利用できる音環境を整備	Q2 サービス性能 清掃しやすく汚れにくい内装材の選定とごみ庫スペースを確保し、日常の維持管理がしやすい環境を整備
Q3 室外環境 (敷地内) 可能な限り屋根の高さを低く抑えるよう計画する。また、敷地の外周に植栽帯を設けバッファゾーンを形成するとともに、敷地内を可能なかぎり植栽する	Q3 室外環境 (敷地外) 車両利用者・歩行者とも利用しやすい動線計画とし、緊急時の緊急車両動線と駐車スペースを確保している。敷地の外周に植栽帯を設けバッファゾーンを形成するとともに、敷地内を可能なかぎり植栽する
LR1 エネルギー 省エネルギー計画書の基準を満たす計画とする	LR2 資源・マテリアル 構造体と仕上げ材の分割可能な計画とする。また、リサイクル建材を一部採用する

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される